

令和4年度 宇都宮市立細谷小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

心身ともに健康で、自ら考え正しく判断し、豊かな心でたくましく生きる児童の育成

《目指す児童像》

- ・明るく思いやりのある子（豊かな心の育成）【やさしく】
- ・健康でねばり強い子（健康・体力の向上）【つよく】
- ・よく考え進んで学ぶ子（基礎学力の定着）【かしこく】

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化に向け、児童一人一人が自分のよさや可能性を認識しながら、他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働し、持続可能な社会の創り手となる能力を育む特色ある教育活動の展開に努める。また、様々な社会の変化に適切に対応し、児童の学びを保障するとともに、安全・安心で誰からも信頼される学校を目指す。

そのために、「優しさと笑顔いっぱいの学校」を合言葉に、全教職員が教育的愛情と専門職としての自覚と使命感をもって確かな指導力を身に付け、和の信頼関係のもとで協働するとともに、家庭や地域と連携を深めながらチーム細谷としての力を高め、児童はもとより、教職員、保護者、地域住民にとって魅力のある、活気と創意に満ちた学校づくりを推進する。

チーム細谷による、優しさと笑顔がたっぷりの学校づくり

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）児童一人一人が自分のよさや可能性を認識し、自己有用感を高めながら夢や目標に向かってねばり強く努力できるよう、全ての教育活動を通して認め励ます指導を推進する。
- （2）児童に確かな学力を身に付けさせるため、主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進するとともに、発達段階や個に応じたきめ細かな指導に努める。
- （3）○児童に規範意識、思いやり、やり抜く心などのたくましさを育むため、道徳教育と関連を図りながら、地域の特色や教育的資源を活用した体験活動や交流活動を実施する。
- （4）児童に健康で安全な生活を送ることができる資質・能力を育むため、自分の健康や体力への関心を高め、心身の健康を心がける指導や運動の日常化を促進する指導を充実する。
- （5）学校と家庭、地域が連携を深められるよう、魅力ある学校づくり地域協議会を通した一層の地域教育力の活用や、積極的な情報発信により地域とともにある学校づくりを推進する。
- （6）教職員が健康で生き生きと本来の職務に専念できるよう、全教職員の共通認識のもとで校務の見直し、精選、効率化を進め、学校の働き方改革を推進する。

【宝木地域学校園教育ビジョン】

「いきいき宝木」心豊かな宝木っ子の育成を目指します

～他を思いやる心や規範意識を育み、基本的生活習慣や主体的に学ぶ態度を身に付けさせる指導の工夫～

4 教育課程編成の方針

- （1）日本国憲法・教育基本法・学校教育法・同法施行規則並びに小学校学習指導要領・県教育委員会の方針・第2次宇都宮市学校教育推進計画並びに教育スタンダードを受け、本校の教育目標の達成を期し、令和4年度指導の重点等を踏まえるとともに、本校や地域の実情、児童の実態等を考慮しながら、「生きる力」を育む知・徳・体の調和のとれた教育課程を編成する。
- （2）義務教育9年間における発達段階に即した指導と、地域学校園教育ビジョンの実現を図るため、地域学校園内の小中学校と連携して小中一貫した教育課程の編成に努める。
- （3）教育活動の質の向上と発展に資するよう、学校評価をはじめとした各種評価、学力調査や質問紙調査の分析結果等を踏まえて課題を明確にし、教育課程の改善と充実を図る。
- （4）社会に開かれた教育課程を意図し、地域社会や保護者等の願いを考慮して教育課程を編成するとともに、本校の目標や特色ある教育活動等についての発信に努める。
- （5）学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応していくための資質・能力を育成することができるよう、教科横断的な視点でカリキュラム・マネジメントの充実に努める。
- （6）感染症や災害等の緊急事態などに適切に対応しながら児童の学びを保障できるよう、GIGAスクール構想のさらなる充実に努めるとともに、指導形態や指導法を工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】 ・自己有用感を高める指導を家庭、地域と連携しながら全教育活動を通して推進する。 ・チーム細谷としての力を一層高めるとともに、学校の働き方改革を推進する。 ・GIGAスクール構想の実現に向けた取組を着実に進める。 ・積極的な情報発信と地域教育力の活用を通して地域とともにある学校づくりを推進する。 【学 習 指 導】 ・児童一人一人が自らのよさに気付き、伸ばすことができるようにする指導の工夫 ・主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ・安心して考えを伝え合い、互いに高め合える学び合いの重視 ○基礎・基本の確実な習得を図るための、まとめの学習の充実と家庭学習の習慣化 【児 童 生 徒 指 導】 ・認め合い励まし合う中で、児童一人一人が自分への自信を深められる集団づくり ・豊かな体験活動や交流活動の重視と、それらとの関連を図った道徳科授業の充実 ・明るいあいさつや、時と場に応じた正しい言葉遣いができるようにする指導の充実 ○規範意識や正義感を高め、基本的な生活習慣やマナーを身に付ける指導の充実 ○相手の気持ちを考え、正しく判断して行動する児童の育成（いじめを生まない指導の推進） ・特別な配慮を要する児童（不登校含む）の共通認識に基づく対応ときめ細かな指導 【健康（体力・保健・食・安全）】 ・自分で目標を立て、達成に向けて粘り強く取り組むことができる活動の工夫 ○自分の体力について関心をもち、自ら進んで運動に取り組む指導の充実 ・自らの健康への関心を高め、感染症の予防を含めた生活習慣を身に付ける指導の工夫 ・望ましい食習慣を身に付けるための、給食の時間や各教科の指導の工夫と家庭との連携 ・児童が安全を心がけ、自ら危険を予測して回避できる行動力を身に付ける指導の充実
--

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点項目・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的取組」の方向性には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

	評価項目	主な具体的な取組	方 向 性	評 価
目 指 す 児 童 の 姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「児童は、授業中、話をしっかり聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答率 85%以上 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上	1「きらきら細谷っ子学習の約束」に基づき、話の聞き方「話す人の方に目と体を向ける」「最後まで聞く」発表の仕方「手を挙げて、ゆっくりはっきり話す」「丁寧な言葉で話す」の徹底を図る。 2児童が意欲的に授業に取り組めるよう、導入を工夫したり、学び合いの場を設定したりするなど授業形態を工夫する。 3授業の中に発表や話し合い活動の場を意図的に設定して、聞くこと・話すことの日常化を図る。	B	※肯定的回答率の▼は、設定した数値指標を、3ポイントを超えて下回っているものを示す。また、↑↓は、昨年度と比較し3ポイントを超えて上下のあったものを示す。 【達成状況】 肯定的回答率：教職員 89.7% 児童 92.6% ・1については、「きらきら細谷っ子学習の約束」や「聞き方・話し方の合言葉」の掲示を活用して指導しているが、定着している児童とそうでない児童との差が見られた。特に聞き方については、繰り返し指導し、意識させてきたが、十分ではない。 ・2については、興味をもてる導入の工夫や、ペアやグループなどの学習形態の工夫を積極的に行うことで、児童が意欲的に課題に取り組むことができた。 ・3については、クロームブックの活用により、話し合いの幅が広がった。新型コロナウイルス感染症対策をしながら、話し合い活動や学び合う場の設定を工夫していた。 【次年度の方針】 ・引き続き、1～3の取組を行っていく。 ・話を聞く指導については、掲示物を意識させながら発達段階に応じてしっかりと身に付けさせたい。 ・クロームブックの効果的な活用については、学校全体で共有していく。

A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒保護者の肯定的回答率 85%以上 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上	1 ○「きらきら細谷っ子生活の約束」に基づき、「相手の気持ちを考えて生活すること」の徹底を図る。 2 自己有用感を高める指導を、全教育活動を通して推進する。また、「自己有用感」という言葉について家庭や地域に積極的に発信をし、家庭、地域とも連携して児童の自己有用感を高められるようにする。 3 道徳の時間や、帰りの会でその日の振り返りなどをして、認め励まし合う中で児童一人一人が自らのよさに気づき、自信を深められるようにする。 4 学校行事や児童会活動、授業でのペア学年活動など、3密にならない方法でのクラス以外での交流を工夫し、異学年のふれあいを充実させ、思いやりの心を育てる。	B 【達成状況】 肯定的回答率：保護者 92.6% 児童 90.6% ・2については、「自己有用感を高める」という本校の研究テーマに全職員が取り組み、成果を出している。「自己有用感」について懇談会で保護者に説明できたのもよかった。 ・3については、帰りの会で友達のよいところや頑張りを発表する機会を設けたことで、お互いに認め合う意識を高めることができた。 ・4については、新型コロナウイルス感染症対策をしながら、昨年度よりも縦割り清掃やなかよし班活動などの異学年交流が充実してできた。 【次年度の方針】 ・引き続き、1～4の取組を行っていく。 ・2については、地域学校園での取組「心ほかほかプロジェクト」が児童にとって、自己有用感をもてたようなので、次年度も年に数回続けたい。 ・4については、感染症対策に配慮した方法を工夫しながら、なかよし班での遊び以外の活動を行い、異学年のふれあいをより充実させる。
A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上	1 「きらきら細谷っ子生活の約束」が日常的に守れるように、毎月の生活目標を設定し、各学級の朝や帰りの会などで振り返りを行う。また、巡回指導を行い継続的に指導していく。 2 児童会を中心に児童主体できまりを決め、児童から児童へきまりを守る大切さを伝える取組を行う。 3 道徳の授業内容を充実させるとともに、ルールやきまりを守ることの大切さや必要性を、具体的な場面の中で指導する。また、児童会を中心として児童からもルールやきまりを守ることの大切さを発信できるように支援していく。 4 児童の実態把握に努め、校内外の児童の様子について全職員で共有するなど、全校体制による指導の充実を図る。	B 【達成状況】 肯定的回答率：教職員 86.2% 児童 88.6%↑ ・1については、毎月の生活目標が決まっていることで、児童が意識しながら生活ができていく。 ・2については、今年度は感染症対策をとりながら徐々に活動を広げることができた。 ・3については、日常生活の具体的な場面でその都度指導を行うことにより、きまりやマナーを守ろうとする児童が増えてきた。しかし、個人差が大きく引き続き指導が必要である。 ・4については、教職員全体で児童の様子を把握することで、担任だけでなく多くの目で児童指導ができていた。 【次年度の方針】 ・引き続き、1～4の取組を行っていく。 ・あいさつや言葉遣い、廊下の歩き方、休み時間の過ごし方など、基本的なきまりやマナーの育成について今後も全校体制で取り組む。
A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上 ⇒児童の肯定的回答率 90%以上	1 教師自らが児童に明るいあいさつの範を示し、よくあいさつのできる児童について折に触れて称賛する。 2 児童会中心のあいさつ運動を実施したり、登校班長会議で班長にあいさつ励行を呼びかけたりし、あいさつの習慣化を図る。 3 ○地域学校園での合同あいさつ運動を実施し、あいさつをする気運を高める。	B 【達成状況】 肯定的回答率：保護者 83.9%↑ 児童 93.3% ・1については、廊下ですれ違った際や登校時に積極的にあいさつのできる児童が多く、時と場に応じたあいさつができるようになってきた。 ・2については、月1回の「ほかほかあいさつ運動」を行っており、意欲的にあいさつをする児童が多かった。 ・3については、今年度も2回の小中合同あいさつ運動を実施することができ、先輩である中学生の立派なあいさつが、児童により影響を与えていた。 【次年度の方針】 ・引き続き、1～3の取組を行っていく。 ・あいさつ運動については、各委員会やクラスごとに行うなどの工夫を取り入れながら次年度も実施していきたい。

A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「児童は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上	1 教科の学習や特別活動等の様々な場面で、児童一人一人にめあてをもたせ、指導し、それを評価したり称賛し合ったりして、最後まで頑張る態度を育てる。 2 自学ノートや漢字ノートの頑張りを掲示するなどして、学級で見える化するとともに蓄積していく。 3 目標や将来に向かうためのキャリアパスポートを活用し、家庭と連携して、目標をもって頑張る児童の育成をしていく。 4 児童の頑張っている様子を、保護者に知ってもらえるよう、各種たよりや学校ホームページ等で積極的に伝えていく。	【達成状況】 肯定的回答率：保護者 71.6%▼ 児童 88.3%↑ ・1については、授業の始めにめあてや活動の流れを提示し、活動の中で一人一人に励ましの言葉をかけながら評価したり称賛したりすることで、様々な場面で児童が最後まで頑張る姿が見られた。 ・2については、廊下に自学ノートの頑張りを掲示することで、保護者も授業参観時に見ることができ、児童のやる気につながるとともに、他の児童への啓発にもなった。 ・3については、児童が目標をもって頑張る姿を家庭と共有することができ、有効であった。 ・4については、学年だよりに毎月児童の頑張りの様子が分かる写真を掲載したことで、子供も保護者も意識して見ていた。 【次年度の方針】 ・引き続き、1～4の取組を行っていく。 ・4については、引き続き学校ホームページの閲覧を学年だより等で啓発するとともに、さくら連絡網を活用するなど、保護者へのPRの仕方も考えていく。
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒保護者の肯定的回答率 85%以上 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上	1 健康や運動への意欲を高め、めあてをもって自己の体力向上を目指せるように、学習カードや頑張リカードを活用し、日々運動に取り組めるような手立てを講じる。 2 児童の安全への意識を高めるため、多様な避難訓練を実施する。また、避難訓練の事前指導の充実を図ったり、日々の生活の中で危険を感じた経験を学級で共有したりする時間を設ける。	【達成状況】 肯定的回答率：保護者 90.4%↑ 児童 92.8% ・1については、体育の授業で頑張リカードを用いて学習を進めることで、目標をもたせたり、毎回の授業の後に振り返りをさせたりした。意欲的に運動に取り組む児童が多く、有効であった。 ・2については、避難訓練以外に、学級活動や道徳の時間などで安全に関する話題を示すことで、児童の安全意識を高めた。 【次年度の方針】 ・引き続き、1・2の取組を行っていく。 ・災害についてだけでなく、日常の学校生活のなかで危険だと思われる行動を、学級で共有する時間を設けていく。 ・避難訓練に真剣に取り組めるよう、事前指導をしっかりと行っていく。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】全体アンケート「児童は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上	1 学校教育の様々な場面で、個人の目標だけでなく、学級や集団としての目標を設定し、みんなで協力して目標に向かって努力する経験を積み重ねられるようにする。 2 全学年、学級活動や総合的な学習の時間等で、夢や目標を発表する時間を設け、実現に向けた取組を支援していく。 3 集団の目標が達成できた成功体験を数多く経験できるように、他者のために活動する喜びを体得できる活動を意図的に設定する。	【達成状況】 肯定的回答率：保護者 71.6%▼ 児童 88.3%↑ ・1については、学級ごとに学級らしさを生かした学級目標が設定できた。また、その目標を掲示することで、児童は目標を意識し頑張ることができた。 ・2については、個人の目標達成に向けて教室内に目標を掲示したり、振り返りに保護者の一言を記入していただいたりするなど、家庭と連携しながら取り組むことができた。また学級目標を達成するために、自分たちはどうすべきかを話し合うことができた。 ・3については、各学級でのイベントの企画や実施をするなど、クラスで共通の目標をすることで、目標が達成できる喜びを感じていた。 【次年度の方針】 ・引き続き、1～3の取組を行っていく。 ・保護者に向けて、児童が夢や目標をもって頑張っている様子を教室に掲示したり、学年だよりなどで発信したりしていく。

A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】全体アンケート「児童は、外国語活動（英語）の授業や ALT との交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上	1 授業の中で、ALT と児童、担任と児童、児童同士が英語を使ってやりとりをする場面を意図的に設けるよう、担任と ALT の事前打合せを行う。 2 ALT と交流できる昼休みを設けるなどして、児童と ALT が会話する機会を増やし、英語を使うことを日常化する。 3 学年・学級の実態に応じて、朝の時間に歌やゲームで英語に親しむ時間・コミュニケーションを図る時間など工夫し、英語に親しむことができるようにする。	【達成状況】 肯定的回答率：児童 87.1% ↑ ・ 1 及び 2 については、ALT 不在が多く実施が難しかった。 ・ 3 については、今年度から全校一斉の英語タイムが無くなったので、学級による差が大きい。 【次年度の方針】 ・ 引き続き、1～3 の取組を行っていく。 ・ 1 については、ALT と担任という項目を追加する。 ・ 朝の会や帰りの会で、英語を使ったゲームを行う。 ・ 金曜日のスキルタイムは、昨年度のように英語タイムに戻し、児童が英語を耳にする機会を増やすことも検討していく。
A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】全体アンケート「児童は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	1 生活科や社会科、総合的な学習の時間などで身近な地域や宇都宮全域に関する学習をする際に、その良さについての教材研究を十分に行う。 2 身近な地域や宇都宮について校内研修を行い、教師自身が宇都宮についての理解を深める。	【達成状況】 肯定的回答率：教職員 69% ▼ ↓ 児童 83.4% ・ 数値指標（教職員）は達成できなかった。一方で、児童の肯定的回答率は、昨年度とほぼ同じであった。 ・ 1 については、生活科や社会科、総合的な学習の時間などで、周辺の地域や宇都宮市について学習し、理解を深めるだけでなく、宇都宮の良さについても話し合う機会を設けた。また、教師も教材研究を行い、理解を深めた。 ・ 2 については、校内研修の実施により情報共有ができたことで、教師自身の宇都宮についての関心が高まった。 【次年度の方針】 ・ 引き続き、1・2 の取組を行っていく。 ・ 児童も教師も宇都宮について理解するだけでなく、良さや魅力についても話し合ったり、児童会からも全学年に向けて発信したりする場を設ける。 ・ 普段から教師間の情報共有を密にし、宇都宮の良さについて、学びを深める。
A10 児童は、ICT 機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】全体アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒教職員の肯定的回答率 85%以上 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	1 GIGA スクール構想の推進に向け、各教科等で、個人用パソコンやインターネット等を効果的に活用する授業を意図的にを行い、年計に位置付ける。また、そのための研修を行う。 2 担任と図書館司書が連携して、学習に必要な本を用意したり、調べ学習の場を工夫したりして、児童の学びを深める。	【達成状況】 肯定的回答率：教職員 100% ↑ 児童 91.6% ・ 1 については、教師がクロームブックを使用することに慣れ、効果的な活用ができるようになってきた。 ・ 1 については、児童は、AI ドリルやその他の課題、調べ学習に意欲的に取り組んだ。 ・ 1 については、研修を受け、授業に活用したり学年の先生に伝えたりした。 ・ 2 については、図書館司書と連携し、図書室や市立図書館の本を、様々な教科の調べ学習の際に活用することができた。 【次年度の方針】 ・ 引き続き、1・2 の取組を行っていく。 ・ 1 については、学年で同じ程度、個人用パソコンが使えるように連携を図る。

	A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒地域住民の肯定的回答率 85%以上 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上	1 昔遊びの交流や登下校の見守りボランティアとの顔合わせ会、地域の高齢者の方への感謝の手紙を書くことを通して、高齢者への感謝の気持ちをもたせる。 2 育成会や地域協議会と連携を図りながら、児童が高齢者とともに活動する機会を設け、高齢者へのいたわりの心を育む。	【達成状況】 肯定的回答率：地域住民 100% 児童 90.6% ・1については、感染症対策をしつつ、できる範囲で行った。 ・2・5 年生による田植えや稲刈り、生活科での虫取り体験などでお世話になった地域の高齢者の方々に手紙を書くことで、感謝の気持ちを伝えることができた。 【次年度の方針】 ・感染症対策に配慮しながら引き続き、1・2の取組を行っていく。 ・登下校時には、「おはようございます。」「さようなら。」などのあいさつに加えて、「いつもありがとうございます。」などの声掛けができるように指導し、日頃から地域の高齢者への感謝の気持ちをもつことができるようにする。
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	1 生活科や社会科及び総合的な学習の時間等に、水や電気、資源について学ぶ機会を通して、それらを大切する態度を育てる。 2 児童に対して、授業の内容と関連させながら「持続可能な社会」というキーワードを意図的に用いる。 3 環境美化委員会の活動で、節電・節水・リサイクルを呼びかける放送やポスター作成を行い、「持続可能な社会」について、関心を深めさせるようにする。 4 避難訓練などを通して、災害の実際や災害への備え等について身近な問題としてとらえ、対応について考えることができるようにする。	【達成状況】 肯定的回答率：教職員 58.6%▼↓ 児童 86.4% ・数値指標（教職員）は達成できなかった。一方で、児童の肯定的回答率は、昨年度とほぼ同じであった。 ・1と2については、SDGsを紹介する動画を観たり、社会の時間に取り上げたりして意識付けを図った。 ・3については、節電・節水・リサイクルについて担任が声掛けを行ったり環境美化委員会で作成した節水を呼び掛けるポスターを水道前に掲示したりすることで、教室の電気をこまめに消したり手洗いやうがいの際に意識して水道を止めたりしている様子が見られた。またリサイクル用紙の回収も昨年度に引き続き行った。 ・4については、感染症対策をしながら避難訓練を行った。訓練することの大切さを教員も児童も再認識できた。 【次年度の方針】 ・引き続き1～4の取組を行っていく。 ・4については、竜巻や台風対応の避難訓練を実施し、事前指導において、地球温暖化の影響で竜巻や台風の被害が増えていることを話したり動画を見せたりすることで、児童への意識付けを図る。
目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答率 90%以上	1 担任は、特別な支援を必要とする児童の実態の把握に努める。 2 教育相談のみならず、日々児童と接する中で、児童一人一人のニーズや悩みを把握し、関係機関と連携を図りながら、個に応じた支援を展開する。 3 打合せでの情報交換、ケース会議や教育支援委員会を通して、教職員間での情報共有を図り、児童理解に努め、組織的に支援にあたる。	【達成状況】 肯定的回答率：教職員 100% ・1については、配慮を要する児童や問題行動の実態を把握し、共通理解を図りながら組織的に対応することができた。 ・2については、SCや市教育センター、子ども家庭支援室、外部支援機関等との連携を図りながら、個に応じたより良い支援ができた。 ・3については、教育支援委員会を定期的に開くと共に、必要に応じて関係者によるケース会議を開いたり、毎週の打合せの時の情報交換を行ったりした。それらを通して各学年の配慮児童の実態を知ることができたため、日々の指導に生かすことができた。 【次年度の方針】 ・引き続き1～3の取組を行っていく。 ・特に3については、教職員間での情報共有をもとに、児童一人一人の理解に努め、より一層組織的な支援を図る。

A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケート「学校はいじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答率 90%以上	1 教育活動全体及びいじめゼロ強調月間（5月・9月）の取組を通して、児童に「いじめは決して許されない」ことを徹底指導する。 2 いじめアンケートを年間4回実施し、早期発見に努める。 3 道徳の時間や交流活動で学んだことが生かせるような学級経営を心掛け、児童同士の温かい人間関係を醸成する。 4 いじめに関する校長講話や学校での取組をたより等で保護者にも発信していく。	【達成状況】 肯定的回答率：保護者 79.7%▼↓ 児童 95.5% ・数値指標（保護者）は達成できなかった。一方で、児童の肯定的回答率は95%を越えている。 ・1について、代表委員児童による校内放送での呼びかけや、代表委員児童がいじめゼロに向けての劇を演じるなど、児童主体の取組を行うことができた。 ・2について、いじめアンケートや教育相談の際に、児童一人ひとりの悩みや困りごとを聞き、いじめの早期発見に努めることができた。 ・3について、道徳の時間にいじめに関する題材を扱う機会を設けることで、「いじめはどんなことがあっても絶対にしてはいけない」気持ちの醸成に努めることができた。 【次年度の方針】 ・引き続き1～4の取組を行っていく。 ・各取組について、積極的に保護者に発信することで、理解と協力を得ていきたい。
A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】全体アンケート「教職員は一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級づくりを行っている。」 ⇒保護者の肯定的回答率 85%以上 「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上	1 「1日欠席で電話、2日欠席で家庭訪問」を基本に、家庭との連絡を密にとる。 2 不登校の原因がどこにあるのか、児童と話し合う時間を十分にとることと、それを取り除く配慮に努める。 3 教室に入りにくい児童には、保健室等、教室以外の居場所を提案し、不登校にならないよう配慮する。 4 週1回の打合せ時に問題行動等、月1回の職員会議時に不登校状況等についての伝達を行い、全職員で情報を共有し、全教職員で対応にあたる。 5 新たな不登校を生まないためにも温かい学級経営に努める。	【達成状況】 肯定的回答率：保護者 89.1%↓ 児童 94.8% ・1～5について、計画通り行った。不登校傾向のある児童については、家庭やS Cと連携を図った。 ・1について、担任は保護者や児童の心情に寄り添い、家庭の事情に合わせて連絡を取るよう心掛けた。 ・5について、「自己有用感を高める」という本校の研究テーマに全職員が取り組むことで、どの子も過ごしやすい環境づくりに努めた。 【次年度の方針】 ・引き続き1～5の取り組みを行っていく。 ・S C等、外部機関と連携し、専門的なアドバイスを受けながら対応する。 ・Q-Uや教育相談等で気になる児童がいた場合は、職員間や家庭との情報共有を行い、組織的に対応することで、行き渋りの未然防止に努める。
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答率 90%以上	1 担任は当該児童（保護者）の文化的背景を十分に理解し、他の教職員にも周知を図る。また、学級の他の児童にも当該児童への配慮点を話し、理解を得るようにする。 2 日本語指導講師及び日本語指導ボランティアを活用し、個に応じた日本語指導を行う。 3 担任は日本語指導講師及び日本語指導ボランティアと綿密な連携を図り、当該児童の学校生活の充実につながるようにする。	【達成状況】 肯定的回答率：教職員 100% ・1については、教職員間で情報共有をしながら、当該児童の理解に努めることができた。場合によっては、かがやきルームでの支援を継続して行った。 ・2については、日本語指導講師によるきめ細かい指導のおかげで、当該児童への十分な指導がなされた。 ・3については、日本語指導講師と担任が、当該児童の日本語指導の内容や学級の様子を共通理解し、学校生活の充実につながる支援を行うことができた。 【次年度の方針】 ・引き続き1～3の取組を行っていく。

A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケート「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」 ⇒保護者の肯定的回答率 85%以上 「私は、今の学校が好きです。」 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上	1 児童一人一人の良さを認め、居がいのある学級づくりに努める。 2 児童や地域の実態を踏まえて、前年度の評価結果と反省をもとに、教育課程を編成する。 3 児童が、学校行事や特色ある教育活動などに意欲的・主体的に取り組めるような場を設定する。	【達成状況】 肯定的回答率：保護者 91.6% 児童 87.1%↓ ・感染症予防のために十分な活動ができないことはあっても、児童は元気に学校生活を送っていた。 ・児童の肯定的回答率が下がったのは、規範意識が上がった結果かと思われる。 ・1については、学校全体として「自己有用感を高める授業づくり」を実践し、互いに認め合う学級の雰囲気が醸成されてきている。 ・3については、感染症対策をしながら行事が少しずつ開催され、児童は楽しみながら取り組むことができた。 【次年度の方針】 ・引き続き1～3の取組を行っていく。 ・3については、児童会を中心に、児童主体の活動となるよう計画・支援していく。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケート「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細やかな指導をしている。」 ⇒保護者の肯定的回答率 85%以上 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答率 90%以上	1 基礎・基本の定着を図るために、授業のねらいを明確にし、まとめや振り返りで確認する。 2 ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりに努める。 3 授業の最初に、その授業の流れをミニホワイトボードに示し、児童が学習の見通しをもつことができるようにする。 4 ティームティーチングや少人数指導、かがやきルームでの指導を通して、児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導に努める。	【達成状況】 肯定的回答率：保護者 88.1% 児童 94.8% ・1については、毎回の授業の中でめあてを確認し、まとめや振り返りも行うことができた。 ・2については、ICTやワークシート等を活用し、分かりやすい授業づくりに努めた。 ・3については、全ての授業では難しいが、流れを示すことで、児童が見通しをもって授業に取り組むことができた。 ・4については、ティームティーチングや少人数指導を算数で行ったり、かがやきルームでの指導を行ったりすることで、個に応じた指導ができた。 【次年度の方針】 ・引き続き1～4の取組を行っていく。 ・算数に関しては、習熟度別学習を適宜取り入れて児童の実態に合わせた授業と支援を引き続き行う。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答率 90%以上	1 全教職員が協力し合う体制（共通理解・共通指導）で学校運営に取り組み、児童に関する話合いの場を設ける。 2 自己評価シートの作成を通して学校経営への参画意識をもち、担当校務分掌に主体的に取り組む、組織的な運営に努める。	【達成状況】 肯定的回答率：教職員 96.6%↓ ・肯定的回答率がやや下がったのは、今年度多くの教職員が異動したためと考えられる。 ・1については、学校全体として共通理解を図り、連携・協力しながら児童指導等、効果的に行われていた。特に、児童指導の共通理解を図るケース会議は、運営体制を整え、積極的に行うことができた。 【次年度の方針】 ・引き続き1・2の取組を行っていく。 ・次年度も、教務主任、児童指導主任、特別支援コーディネーター、SCMを中心に引き続き組織的な運営に努めていく。

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答率 85%以上	1 勤務時間を意識した働き方をするよう、管理職を中心に声かけを行う。 2 ミライムの掲示板を活用した職員間の連絡や、ペーパーレス化に向けた取組を行う。 3 月1回「リフレッシュデイ」を設け、意識化を図る。 4 業務改善に向けて、行事の反省や話し合いを行う。	【達成状況】 肯定的回答率：教職員 75.9%▼ - 肯定的回答率は昨年度よりやや上昇したが、数値指標は達成できなかった。 2については、皆が意識して掲示板を利用するなど、ペーパーレス化率はかなり高まった。 3については、業務多忙の日々で、「リフレッシュデイ」とするような雰囲気になかなかならなかった。 4については、アンケート回収機能を活用した行事の反省を行うことができた。 【次年度の方針】 - 引き続き1～4の取組を行っていく。 3については、管理職や学年主任を通じた発信を増やし、教職員個々も、ワークライフバランスを考えた働き方を実現できるようにする。また、教職員が勤務時間内に学級事務や教材研究ができるように、金曜日は清掃と昼休みカットの日課に変更し、放課後の時間を確保することで、定時退勤を推奨し、「リフレッシュデイ」取得を促す。 4については、アンケート回収機能を最大限活用し、職員間の情報共有ができるようにする。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上 「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	1 地域学校園教育ビジョンに基づき各分科会でテーマを決め、適切な活動を行う。 2 乗り入れ授業を実施し、学校園の児童・生徒の学力の向上や学校生活支援において有効に機能させる。 3 小中合同のあいさつ運動や中学生による行事への参加などを積極的に実践し、地域の活性化を図る。	【達成状況】 肯定的回答率：保護者 85.1% 児童 88.5%↑ 1については、予定した分科会を実施できた。また、分科会ごとのテーマに沿った情報交換を行うことができた。学校園での研修は、情報交換や情報共有ができて有効であった。 1については、食育分科会で「朝食」をテーマに決め、「朝食アンケート」を実施した。児童生徒の実態を把握することができ、食育指導に生かされた。 2・3については、中学校から小学校への乗り入れ授業1時間（英語）、小中合同あいさつ運動2回、1月には6年生の中学校訪問と、小中が連携し活動することができた。 【次年度の方針】 - 引き続き1～3の取組を行っていく。 - 次年度も、互いに無理のない範囲で、小中連携を進めていく。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒教職員の肯定的回答率 90%以上	1 地域協議会や自治会、育成会、PTA、子どもの家（アドベンチャークラブ）等との連携を進め、特色ある活動の充実を図る。 2 放課後子ども教室（スマイルほそや）との連携を図り、地域の教育力を生かした体験的な学習活動を行う。 3 地域ボランティアや地域企業等の協力を得ながら、専門的、体験的な学習活動を行う。	【達成状況】 肯定的回答率：教職員 100% 1については、地域協議会とPTA執行部の協力による「2・5年生による田植えと稲刈り」や、学校教育支援部会による「夏休みの作品整理」、PTA文化祭委員会による「文化祭」が行われた。特に「文化祭」は3年ぶりの開催で大盛況であった。 【次年度の方針】 - 引き続き1～3の取組を行っていく。 - 次年度も、体験的な活動を重視していく。

A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上	1 校外学習、オープンスクール、交流学习、ふれあい活動など、諸活動に参観や参加できる機会を多く設け、家庭・地域・企業等との連携を深める。 2 児童の教育活動の支援となるよう、学校支援ボランティアを募集・活用していく。 3 出前授業等も積極的に取り入れる。	【達成状況】 肯定的回答率：児童 85.1%↓ ・1については、今まで新型コロナウイルス感染症対策により実施できていなかったオープンスクールを実施することができた。 ・2については、2年生生活科において、店に協力をお願いし、新型コロナウイルス感染症対策をしながら町探検を実施できた。校外学習中、多くの保護者ボランティアの協力があつた。 ・3については、1・2年生が外部講師を招いて「おそうじ教室」を実施することができた。 【次年度の方針】 ・引き続き1～3の取組を行っていく。 ・2・3については、各学年の実態に応じてではあるが、学習支援ボランティアや出前授業等、積極的な活用を図っていく。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答率 85%以上 ⇒地域住民の肯定的回答率 85%以上	1 安全点検や日常の観察を通して、施設・設備の安全管理に努める。 2 メール配信システムを活用し、児童の安全確保に努める。 3 緊急避難時に備え、非常階段や防火扉周辺を整理したり、災害備蓄品の管理を徹底したりする。	【達成状況】 肯定的回答率：保護者 90.7% 地域住民 100% ・1については、毎月の安全点検や日々の観察を通して、複数の目で設備等の安全管理ができた。 ・2については、引き渡し訓練等でメール配信システムを活用した。 ・3については、緊急避難時に備え、体育館更衣室の整頓を行った。 【次年度の方針】 ・引き続き1～3の取組を行っていく。
A25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。 【数値指標】全体アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒教職員の肯定的回答率 85%以上 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上	1 本に親しみやすい図書室を目指して環境整備に努めるとともに、担任と図書館司書が連携して、学習に必要な本を用意したり、調べ学習の場を工夫したりする。 2 ICT 機器の効果的な活用にも努めるとともに、校内研修を通して教職員の指導力向上を図る。	【達成状況】 肯定的回答率：教職員 100%↑ 児童 91.6% ・1については、特集コーナーやPOP掲示を作り、児童が親しみやすい環境を整えることができた。また調べ学習では、市立図書館の希望図書等を活用するなど、積極的に活用することができた。 ・1については、読書週間中には、教師の読み聞かせや委員会による読書の啓発活動などを行うなど、児童が本に親しむ機会を設けることができた。 ・2については、ICTに詳しい教職員から効果的なICTの活用法を教わることで、クロームブックを使う頻度が増えてきた。一方で教員間の差があるので、学年や教科ごとに効果的にタブレットを使える場面を共有したり、研修する機会を設けたりしたい。 【次年度の方針】 ・引き続き1・2の取組を行っていく。
B1 地域協議会を核として子どもが様々な体験ができる温かい学校づくりを進める。 【数値指標】全体アンケート「地域や地域協議会の方々は、児童のために様々な活動や協力をしている。」 ⇒地域住民の肯定的回答率 85%以上 「地域の人たちは、授業に協力してくれたり、楽しい行事を計画してくれたりする。」 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上	1 地域の方々の協力を得ながら、田植えや稲刈りを行い、収穫した米を総合的な学習の時間や生活科・家庭科などで活用し、地域の人々や自然と触れ合う場を設定する。 2 地域協議会やPTAと協力し、「文化祭」「読み語り」など、豊かな体験活動を展開する。	【達成状況】 肯定的回答率：地域住民 94.4%↓ 児童 88.1% ・1については、2・5年生で田植え・稲刈り体験をし、自分たちで収穫したお米が給食に出ることで喜びを感じ、食を通して地域の自然と触れ合うことができた。 ・2については、感染症対策をしながら3年ぶりに「文化祭」が実施でき、コロナ禍前の行事が戻りつつある。 【次年度の方針】 ・引き続き1・2の取組を行っていく。 ・地域協議会の学校教育支援部会の活動を活性化させたい。

本校の特色・課題等	B2 児童は、時間を守って行動している。 【数値指標】全体アンケート「児童は時間を守って行動している。」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上 「私は、時間を守って行動している。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	1 教師自らが時刻を守って授業を開始・終了し、率先して行うことによって時間を守る意識を育てる。 2 放送委員の自主的な活動により、時間を守ることが習慣化されるよう支援する。 3 チャイムがなくても行動できるよう、児童の意識を高める。	B	【達成状況】 肯定的回答率：教職員 82.8%↑ 児童 84.6% ・1については、授業の開始時刻に始めのあいさつができるよう、終了時刻についてもその時刻にきちんと終わられるよう、意識して授業を行った。 ・2については、放送委員の児童が意欲的に活動し、時間を守って放送や呼びかけをすることで、時間意識をもって行動できるようになった。 ・3については、時計を見ながら行動できる児童が増えてきたが、業間後の3校時や昼休み後の清掃の開始時刻等、チャイムの合図があっても遅れてしまう児童がいるなど、個人差が見られるので、継続して指導していく。 【次年度の方針】 ・引き続き1～3の取組を行っていく。 ・3については、高学年の児童が模範を示せるように指導していく。 ・授業前着席・準備を徹底していく。
	B3 児童は、音読・漢字・計算の基礎的な学力が身に付いている。 【数値指標】学校アンケート「児童は、音読・漢字・計算の基礎的な学力が身に付いている。」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上 「私は、音読や漢字、計算の学習に進んで取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	1 単元ごとの音読テスト、朝の学習を利用した計算練習、漢字・計算オリンピックの実施（年2回）、宮っ子学力ステップアップシート等を活用し、一人一人の学力の定着・向上を図る。 2 家庭学習についても教師間で共通理解を図り、児童や保護者に対しては、「学習の仕方」「家庭学習の大切さ」などを知らせ、家庭学習の充実を目指す。	A	【達成状況】 肯定的回答率：教職員 65.5%▼↑ 児童 84.4%↑ ・1については、年2回の漢字・計算オリンピックを実施したことで、漢字や計算の学習に意欲的に取り組む姿が見られた。振り返りカードで保護者から、コメントをもらうことで学校と家庭とで連携して児童を認め励ます機会となった。しかし、基礎学力の定着の面では、個人差があり、苦手な児童を引き上げることが難しい。また、宮っ子学力ステップシート等の活用が十分ではなかった。 ・2については、学級懇談会や個人面談の際に、お勤めの自学の紹介や家庭学習の大切さを知らせているが、なかなか家庭学習の充実に結び付かない。児童間でも、意欲的に取り組む児童もいるが、個人差が大きい。 【次年度の方針】 ・引き続き1・2の取組を行っていく。 ・基礎学力を定着させるために、1学年前の漢字や計算の復習を実施する機会を設ける。 ・夏休みや冬休み明けに、家庭学習の充実を図れるよう、「家庭学習強化週間」を設け、家庭学習の進め方や生活リズムを整えて学ぶ雰囲気づくりを促す。学校と家庭が連携して家庭学習の習慣化を図っていききたい。
	B4 交流学習（聾学校や高齢者との活動）やなかよし班活動によって、児童に思いやりのある温かい心が育っている。 【数値目標】学校アンケート「交流学習（聾学校や高齢者との活動）やなかよし班活動によって、児童に思いやりのある温かい心が育っている。」 ⇒教職員の肯定的回答率 85%以上 「私は、交流学習（ろう学校や高齢者との活動）やなかよし班活動をするのが楽しい。」 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上	1 豊かな感性の醸成を図れるように心の教育活動（なかよし班活動・高齢者との交流・聾学校との交流・幼稚園との交流）をコロナ禍でも可能な方法を工夫して行う。 2 交流活動の中で身に付いたものが、日々の学校生活の中でも生かせるよう支援していく。	B	【達成状況】 肯定的回答率：教職員 93.1%↑ 児童 87.8%↑ ・1については、コロナ禍でも活動の仕方を工夫してなかよし班活動を行うことで、昨年度より多く実施することができた。異学年交流を通して、児童の思いやり心が育った。 ・2については、交流活動の中で学んだことを、学級で生かせる場を作った。 【次年度の方針】 ・引き続き1・2の取組を行っていく。

B5 教科指導や朝の読書などで、読書活動を推進している。 【数値目標】学校アンケート「学校は読書活動を推進し、児童の読書への関心を高めている。」 ⇒保護者の肯定的回答率 85%以上 「私は、朝の読書や読み語りに楽しく参加している。」 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上	1 朝の読書やボランティアによる読み語り、委員会による読書イベント等を通して、読書活動の充実を図る。 2 学校図書館や、学級文庫の本の充実を図る。 3 「家読のすすめ」を行い、家庭での読書意欲の向上を図る。	B 【達成状況】 肯定的回答率：保護者 86.1% 児童 89.6%↑ ・1については、感染症対策をしつつ、朝の読書や給食の時間の読み語りを積極的に実施することができた。 ・1については、朝の読書が習慣化しており、進んで本を読む児童が多い。 ・2については、学級文庫の整備を行った。 ・2については、図書室利用の時間を有効に使い、読書に親しむ児童が多く見られた。図書室での過ごし方については引き続き指導していく。 ・3については、定期的に「家読のすすめ」を出すことで、家庭へも意識付けが図れた。 ・3について、取組には個人差が見られる。 【次年度の方針】 ・引き続き1～3の取組を行っていく。 ・1については、委員会が活躍できる場面を増やす。
--	--	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・数値指標を達成できている項目は、29項目中23項目で、昨年度より2項目増えた。
- ・教職員の肯定的回答率は、10項目で昨年度より3ポイント以上上昇した。特にA3、A5、A7、B3については、10ポイント以上上昇した。一方、8項目は3ポイント以上下がった。特に、A8、A9、A12、A21については、10ポイント以上下がった。
- ・保護者の肯定的回答率は、昨年度と同程度のものが多かった、A14（いじめ対策）については、昨年度と同様の取組を行ってきたが、5.5ポイント下がってしまった。児童の肯定的回答率は95.5%と高いので、取組の周知不足と考えられる。
- ・児童の肯定的回答率は8項目で昨年度より3ポイント以上上昇した。特にA5、A7については、5.7ポイント上昇し、本校の自己有用感を高めるための指導が成果となって表れていると考えられる。
- ・市内小学校全体の結果と比較すると、全体としては、同様の傾向にある。そのような中、地域住民の評価は、すべての項目において市の結果を上回った。

7 学校関係者評価

- ・公園で休日に遊んでいる児童がいさつをしてくれる。親ともコミュニケーションがとれている表れだと思う。
- ・保護者の肯定的評価が下がった項目もあるが、それだけ教育を大事に思う人が増えたということだと思う。
- ・いじめ対策や不登校対策など、教職員と保護者の肯定的回答の差が大きなものについては、原因を十分に深掘りしておく必要がある。
- ・教職員と保護者の評価に差があるのは、学校行事等の制約や減少により、互いにコミュニケーションがとりづらくなっているからではないか。
- ・「持続可能な社会」については、学校・家庭・地域が一体となって関心を深められるような活動があるとよい。
- ・英語を使つてのコミュニケーションについて、やはり普段から見たり聞いたり慣れ親しんで、気が付いたらこの英語を知っていたという感じがよいと思う。
- ・学校がワンチームで日頃から指導していることに敬意を表したい。
- ・家庭・地域・企業等との連携・協力について、学校関係者としてどのような工夫ができるか探りたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・多くの項目で数値指標を達成できていることから、本校の学校経営や教育活動の取組はおおむね良好ととらえることができる。
- ・次年度は、今年度の取組を基本として継続を図っていくが、特に、「児童の基礎的な学力を身に付させる」ことについては新たな取組を取り入れるなど拡充を図っていく。